

ちょこっと大阪

大和田 昌

難波八阪神社・獅子殿

全国に数ある八坂神社の中で最もユニークで大阪らしい神社が大阪ミナミの繁華街、地下鉄四つ橋線難波駅近くにある難波八阪神社です。この神社は資料の社伝によれば古来難波下の宮と称し難波一帯の産土神で後天皇の延久の頃から祇園牛頭天皇(ごずてんのう)をお祀りする古社として知られていましたが、維新後、神仏分離により寺は廃絶して明治5年(1872)に郷社となりました。現在のご本殿は昭和49年(1974)に完成、神社の綱引き神事は、スサノウノミコが大蛇を退治して民衆の苦難を除かれた故事に基き始められたと云われており、撰津名所図絵や撰津名所図会大成にも紹介されていて、平成13年(2001)には大阪府で初めての無形民俗文化財に指定されています。

また、この本殿の境内には獅子殿と呼ばれる巨大な獅子頭の建造物があり、神社の各種行事を行う舞台として使用されています。高さ12m、奥行き10m、幅11m、もあり正面を見据える鋭い目と大きな口を開けた獅子の歯は黄金の光を放ち異様な雰囲気を漂わせます。目は照明となり鼻はスピーカーの役割を果たしています。ひとめ見た瞬間その迫力に圧倒されます。

神社では獅子の大きな口で勝利を呼び邪気を呑み込み商運を招き縁起が良いとされるため、全国各地から参拝に訪れる人が絶えないと云います。

獅子殿内部神殿には御祭神スサノウノミコの荒魂を祀り唐櫃上加賀獅子一對奉安、格天井には全て手彫の素晴らしい鳳凰の彫刻が施されています。舞台では正月や祭りの日には神楽や各種芸能が奉納されますが、特に夏祭りは盛大で7月13日・14日の両日に亘り斎行され神輿、太鼓も数多く参加して、平成13年には江戸時代から230年ぶりに復活した渡御も出て千日前や道頓堀、戎橋を巡行しナニワの夏を賑々しく盛り上げました。

